

## 実践ノート

# 看図アプローチ協同学習を活用した ライティングの実践 —大学でのワークショップからの考察—

江草千春<sup>1)</sup>

EGUSA Chiharu

キーワード：看図アプローチ・英語教育・ライティング・ビジュアルテキスト・ワークショップ

### 概要

江草（2022）の看図アプローチ協同学習実践で用いたビジュアルテキストを活用して、大学生や英語教員 27 名の参加者に、ライティング授業のワークショップを体験してもらった。参加者の感想によると、江草（2022, 2023a）のように、「ビジュアルテキストを用いて、楽しく英語が書ける」という肯定的な感想がみられた。さらに「今回はライティングを重視した活動でしたが、スピーキングにもリスニングの活動にも使える良い教材だと思っています」等、教材の活用法や指導法に関する感想も多かった。そこで、本稿では、看図アプローチの3つの活動（変換・要素関連づけ・外挿）におけるワークショップ体験の内容を詳細に報告し、参加者のワークシートの記述内容から、看図アプローチの有効性について考察した。

### 1. はじめに

本稿は、江草（2022, 2023a）で行った看図アプローチ実践研究の枠組みの一部を、大学生や英語教員を対象にワークショップとして行ったものである。協同学習を効果的に推進する1つの手法である看図アプローチは、ビジュアルテキストの読解を授業の中に取り入れている特徴がある（鹿内, 2016）。

ビジュアルテキストとは、図・写真・動画・グラフなどのことである。今まで、ビジュアルテキストは「見るもの」と考えられていた。しかしながら、看図アプローチでは、ビジュアルテキストを「読むもの」として位置づけた。また、ビジュアルテキストを読み解いていくための処理活動と

して、次の3つがある（鹿内, 2015）。1つ目が、「変換」であり、ビジュアルテキスト中に描かれている（あるいは写っている）諸要素を言語化する活動である。2つ目が、「要素関連づけ」であり、ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける活動である。3つ目が、「外挿」であり、ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、展開について推量したり結果を予測したりすることにより、発展的に考えていく活動である。ビジュアルテキストには、斬新性・あいまい性・暗示的有意味性・創発性・不調和性・拡散性（Finke, Ward & Smith, 1996, pp.23-24）という6つの特性を含む、ある種の「わかりにくさ」が備わっている必要がある。この「わかりにくさ」

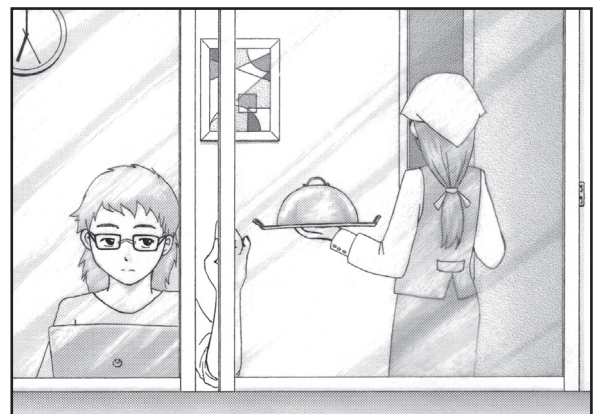
1) 北海道岩見沢東高等学校

が、学習者たちが個々に思考したり、ペアやグループで協同の学び合いを深めながら、ビジュアルテキストを様々な解釈したり、表現したりすることを可能にしている（鹿内, 2015, 2022）。

これまでに、看図アプローチにおける英語教育分野の実践研究は、中学校（茅野・高橋・小笠原・細川, 2021）、高等学校（江草, 2022, 2023a, 2023b）、大学（朝居・織田, 2023）にはあるが、その他の学校種では研究が行われていない。そこで、本稿では、大学生や英語教員を対象に、江草（2022）で用いたものと同じビジュアルテキストを活用したワークショップの内容を詳細に報告する。さらに、参加者のワークシートの記述内容から、看図アプローチの有効性について考察する。なお、ワークシート記述内容を本稿で紹介するにあたって、ワークショップ参加者から書面による承諾を得てある。承諾を得られなかった（承諾書未提出を含む）参加者の記述内容については、本稿では使用していない。

## II. ワークショップ

本ワークショップは、2023年10月28日に奈良県のA大学で行われた。ワークショップの実施計画は以下に示すとおりで、60分で実施された（資料1参照）。参加者は、英語教育のゼミナールや英語の教員免許取得に必要な英語科指導法を受講している国際学部外国語学科英米語専攻の大学生19名と、高校、短期大学、大学の英語教員8名の計27名であった。本ワークショップで用いられたワークシートは、江草（2022）と基本的に同じで、以下に示す4つである（ワークシート1～4参照）。ビジュアルテキストについても江草（2022）と同じ「室内光景」を使用した（図1参照）。



©yuki.ishida

図1 ビジュアルテキスト「室内光景」

### 資料1 ワークショップの実施計画

タイトル：看図アプローチの3つの活動（変換・要素関連づけ・外挿）を体験してみよう！

概要：本ワークショップでは、協同学習を効果的に推進する1つの手法である看図アプローチ（鹿内, 2016）を体験してもらいます。このアプローチでは、「変換」、「要素関連づけ」、「外挿」の3つの活動を通して、学習者の学びを促進させています。参加者の皆さんには、実際にこれらの3つの活動を体験してもらい、このアプローチの有効性を感じていただけたら幸いです。

#### 【ワークショップの流れ】

- ・自己紹介（2分）
- ・看図アプローチの体験（27分）
- ・看図アプローチの理論や看図アプローチ授業実践について説明（17分）
- ・質疑応答（7分）
- ・アンケートと研究承諾書の記入（7分）

ワークシート 1

名前 _____
1. ビジュアルテキストに <u>描かれている『もの』</u> を <u>4つ以上</u> 日本語で書いてください。 (記入欄省略)
2. <u>1.</u> で描かれていた『もの』を <u>英語</u> に直してください。 (記入欄省略)

ワークシート 2

名前 _____
3. 絵はどこにありますか? 答えを5つ日本語で書いてください。 (記入欄省略)
4. <u>3.</u> で書いたものを英語に直してください。 (記入欄省略)
参考情報
<b>There is</b> a pen on the desk. (机の上に1本のペンがあります。)
<b>There are</b> two apples on the table. (テーブルの上に2つのリンゴがあります。)
【前置詞のイメージ図】
in, in front of, behind, on, above, near, beside, under, between についてのイメージ図を呈示 (イメージ図は、著作権の関係上省略)

ワークシート 3

名前 _____
5. ビジュアルテキストの左側のお嬢さん (Maki) はどのような行動をしようとしていますか。日本語で考えて書いてください。 (記入欄省略)
6. <u>5.</u> で書いたものを英語に直してください。 (記入欄省略)

ワークシート 4

名前 _____
7. ビジュアルテキストの授業 (ワークショップ) をやってみてどうでしたか。感想などを自由に書いてください。 (記入欄省略)

ワークショップは、筆者の自己紹介から始めた。それから、看図アプローチの理論の解説前に、参加者に看図アプローチの3つの活動(変換・要素関連づけ・外挿)を体験してもらった。4枚のワークシートは、ワークショップ開始前に配付した。

「変換」の活動では、ビジュアルテキスト中に描かれている諸要素を言語化してもらった。この

活動を行うのが、ワークシート1である。ワークシート1の1.で、「変換」の指示をしている。体験する時間が27分しかなかったので、図1のビジュアルテキストに描かれている「もの」について、日本語と英語を同時に解答してよいと指示した。最初に、個人思考をしてもらい、その後、協同思考で交流してもらった。ここでは、参加者

の解答の一部を以下に示す。

【日本語の解答】

時計 窓 パソコン めがね 洋服 絵  
画 皿 スカート 女性 男性 布 ドア  
手 壁 目 まゆげ 口 顔 首 耳 人  
クローシェ ステンドグラス

【英語の解答】

clock window PC glasses clothes picture  
dish skirt woman man cloth door hand  
wall eye eyebrow mouth face neck ear  
person clothe stained glass

続いて、看図アプローチの3つの活動のうち、ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける「要素関連づけ」を行った。この活動を行うのがワークシート2である。ワークシート2の3. は、「要素関連づけ」を行うための指示である。ここでは、ビジュアルテキスト中に描かれている「絵」はどこにあるか書いてもらった。「変換」の活動と同様に、体験時間の都合上、日本語と英語を同時に解答してよいと指示した。最初に、個人思考をしてもらい、その後、協同思考で交流してもらった。参加者の解答の一部を以下に示す。

【日本語の解答】

絵は壁にある 絵は部屋にある  
絵は時計のとなりにある  
絵は女性のとなりにある  
男の子の後ろ 時計のそば  
女性の左 天井の下 時計と扉の間  
手の届く位置 絵は女性の近くにある  
絵はドアの近くにある  
絵は時計とドアの間にある

【英語の解答】

There is a picture on the wall.  
There is a picture in the room.  
There is a picture next to clock.  
There is a picture next to women.  
behind the boy  
by the clock  
on the left of the lady  
below the ceiling  
between the clock and the door  
where they can reach  
There is the picture near the woman.  
There is the picture near the door.  
There is the picture between the clock and  
the door.

最後に、看図アプローチの3つの活動の1つである「外挿」を行った「外挿」とは、ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、展開について推量したり結果を予測したり、発展的に考えていく活動である。「外挿」は、ワークシート3で行った。ワークシート3の5. では、「ビジュアルテキストの左側のお嬢さん（Maki）はどのような行動をしようとしていますか。日本語で考えて書いてください」と指示した。ただし、「お嬢さん」については、他の人に変えてもいい、と補足説明をした。そして、ワークシート3の6. では、5. で書いたものを英語に翻訳してもらった。「変換」や「要素関連づけ」の活動と同様に、体験時間の都合上、日本語と英語を同時に解答してよいと指示した。最初に、個人思考をしてもらい、その後、協同思考で交流してもらった。そして、3人に解答を発表してもらった。参加者の解答の一部を以下に示す。

【日本語の解答】

窓を閉めようとしている  
 パソコンで勉強しようとしている  
 パソコンでゲームをしようとしている  
 Makiさんは窓を開けようとしています  
 Makiさんは宿題をしようとしています  
 まきは窓の方を見つめている  
 手が窓に触れている  
 PCで作業をしている  
 Makiさんは、パソコンで作業をしている。そして、部屋の空気を入れかえをしたいと考え、窓を開けようとしている。  
 Makiは手を上げようとしている  
 Makiは注文をしようとしている

【英語の解答】

Maki is going to close the window.  
 Maki is going to study with laptop.  
 Maki is going to play game with laptop.  
 Maki is trying to open the window.  
 Maki is about to do her homework.  
 She is looking at the window.  
 Her hand is touching the window.  
 She is using a laptop.  
 Maki is using PC now. So. She wants to open window. Because she replaces air in my room.  
 Maki is going to raise her hand.  
 Maki is going to order to woman.

このように、看図アプローチの3つの活動を体験してもらった後に、看図アプローチの理論や江草(2022)の実践研究の結果について記載した資料を配付した。そして、看図アプローチの理論や筆者の勤務校での看図アプローチ授業の様子

を、写真や動画で呈示しながら17分で説明した。その後、看図アプローチや普通の授業についての質疑応答の時間を取った。以下の5つの質問があった。回答は筆者がその場で行った(資料2参照)。

資料2 ワークショップでの質疑応答の内容

1. 普段どのような心がけを持ちながら授業を行っているのですか？  
 →楽しい雰囲気を醸し出すように心がけています。つまらなそうな気持ちを学習者の前に出していると、彼らは感受性が高く、教師の態度をすぐに察知してしまうためです。
2. 看図アプローチの授業を行う目的は何ですか？  
 →他者とやり取りを重ねながら、読み手に伝わるように英作文を最終的に書いてライティングの力を高め、それを発表することを目的としています。辞書やICT (Information and Communication technology) の活用でグーグル翻訳などのアプリを使うと、ライティングの力がつきにくいと感じる面もあると思います。しかしながら、外国語学習は繰り返しが大事なので、5回、10回と繰り返しているうちに、何回も出てくる表現は、少しずつ身に付いていき、翻訳機能を使わなくて、自力で書こうとする学習者もいます。実際に、現在までに4回、看図アプローチを活用した授業を3ヶ月程度の期間を空けて定期的に行っているが、学習者の中には、できるだけ翻訳機能に頼らないで自分の力で書いてみたい、という意欲を示す学習者もいます。また、個人で思考した後に、ペアやグループで意見を交流することが、お互いに気付かなかった考えを知ることになり、新たな気づきが生まれたり、足りないところを補い合える利点もあつたり、学びが促進されることもあるのも、看図アプローチを行う目的であります。学習指導要領が謳う「主体的・対話的で深い学び」に合う授業であ



ると言えます。

3. 授業で洋楽の活動をしていると言っていたがどのように活用していますか？

→学習者の英語学習の意欲を高めたり、喚起したりするため、毎時間、授業の最初に約10分間を使って洋楽の歌詞を音読して、その後、聞くか歌うかの活動をしています。1ヶ月の間に2曲程度選んで、1回目の授業ではAの曲、2回目の授業ではBの曲というように、飽きがこないように曲を変えています。また、音読が苦手な学習者に対応するため、英文の下にカタカナでルビを振っています。さらには、教師が選ぶ曲は有名で多くの人が知っている曲を選んでいますが、古い曲になりがちなので、年に何曲かは学習者のリクエストにも応じて、学習意欲を喚起するため最近の曲にも挑戦しています。

4. 看図アプローチの授業をライティングで活用していたが、スピーキングでも活用できるのではないですか？

→その通りだと思います。英語が得意な学習者がたくさんいる学校では、ワークシートの発問も英語で記載し、日本語を使わず、英語だけでコミュニケーションを取りながらビジュアルテキストを読み解いていくことも可能であります。また、「外挿」の活動において、ある学習者が発表した英語を聞き取って、それを英語で要約したり、表現したりすることも可能であると考えます。筆者の勤務校の場合、学年の集団にもよりますが、他人とコミュニケーションを取るのが苦手な生徒が多く、クラス全体の前で発表するのが苦手な学習者が多い、という特徴があります。そのため、英作文を書く活動をメインにしました。教師の工夫次第で、看図アプローチは、ワークシートを改良することでスピーキングやリスニングの力を伸ばす活動も可能であります。

5. ワークショップ中に机間巡視をして、学習者の解答に○をつけていたが、何のために行っていたのですか？

→机間巡視を行う理由は、活動の取組状況を把握したり、学習者がどのような解答をしているかをいち早く確認したり、教師側の発問を正しく把握していなかったりしたときに修正できるようにするためであります。また、「がんばっているね」と褒めることで、学習意欲を高める意図もあります。また、机間巡視をすることで、学習者の体調を確認したり、困っていることがあれば話を聞いたり、といった生徒指導的な意味合いもあります。

さらには、早く活動が終わった学習者には、次の課題を呈示したり、困っている他の学習者に支援してください、あるいは、他の学習者と協同思考をしてみてください、と指示を出すためでもあります。このように、机間巡視は、学習指導と生徒指導の二重の効果を生み出す指導方法の1つであります。

質疑応答の後、研究承諾書についての説明をし、最後に、ワークシート4の7. では、今回のワークショップを体験しての感想などを自由に記述し

てもらった。参加者たちは以下のように記述していた。

【参加者の反応】

- ・教科書で見るような分かりやすい絵とは違って、「わかりにくさ」を含んだビジュアルテキストは色々な場合が想像できて新鮮さを感じた。ただ与えられた文章を訳すよりもビジュアルテキストの中から自分で文章を作る方が何倍も身になると感じた。興味深いお話ありがとうございました。
- ・私は看图アプローチは、どこか英検の面接試験に似ていると思いました。あいまいで情報がいくつもある時、自然と情景を考えさせられ、それを英文ではどう書くのか、文を簡単にできないかなど様々考えることができました。決まった文を考えるのではなく自分の情報を頼りに学習できることができました。
- ・普段は英語で問題を解いたり文章を作る授業ばかりだったので、今日、行ったワークショップが楽しく感じた。英語を学ぶ上で楽しい要素が加わると生徒のモチベーションも上がるし、インパクトが強い授業なのでいつもより内容が記憶に残ると思った。
- ・周りの人たちと意見を交換しながら取り組ませてもらいましたが、人それぞれ見方が違っておもしろいと感じました。私は左側の女の子が完全に男の子だと先入観で勘違いをしていました。先入観が怖いと感じた、瞬間でした。
- ・ビジュアルテキストの授業を少し体験してみても、自分じゃ思いつかない発想や答えを周りから聞いておもしろかったです。また、自分の決めつけから物事の見方の視野が狭まったり、答えの幅を狭くしていると感じました。頭をやわらかくして様々な角度から物事を見るのが大切であると実感しました。
- ・自分で書いた日本語を英語に直して、作文力が上がると思った。今回は前置詞だったけど、教えた内容によって絵を選べるのがとても良いなと思いました。

- ・看图アプローチに初めて取り組んでみて楽しかった。隣と会話ができて、簡単な英語を口に出して復習にもなった。絵、写真に色んなパターンをもたすことができるので、何回やっても色んな解答が出ておもしろいと思いました。英語に限らず、年齢関係なくできるので、小さい子、老人にも使えると思いました。
- ・発想力も養えて日本語から英語に訳す力、また、書く機会もあるのでとても色々な能力を伸ばせる活動だなと感じました。また、隣の人と見せ合うことで新たな発見があったり、新たな知識を獲得することができるので、とても有意義な活動でした。この活動を通して、実際に英文を書こうとする子が増えたのかや、空間把握能力や発想力が伸びた子がいるのかなど色々と感じました。
- ・今回、実際にビジュアルテキストを用いた看图アプローチ学習を体験させていただいた中で、自分の考えにはなかった他者の意見が多数あったことを考えると、自らの想像性を養うという意味で、とても良い学習方法であると感じた。
- ・絵を見て、単語を書いたり英文を書いたりするのはとても楽しかったです。他の人の意見を聞いてそういう見方もあるのか、と新しい発見がたくさんありました。巡視をしながら生徒をほめてまわるというやり方がとても良いと思ったので、自分もそういう風になりたいと思いました。また、洋楽を授業に流すというのが、自分の高校の時の先生もやってくださっていて、とても好きだったので、真似したいと思いました。看图アプローチを使った授業、とても楽しかったです。
- ・絵の中から目につくものを書き出すということが思っていたより難しく、細かな所まで見ないと気づけない事柄もあり、大変面白く感じました。また、静止画の状態でも現在、何をしているのか、今まで何をしていたのか、こ

れから何をするのか、イメージする想像力も養われるのかなと感じました。今回はライティングを重視した活動でしたが、使い方によってはスピーキングにもリスニングの活動にも使える良い教材だと思っています。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

- ・イラストをもとに生徒は英作文をすることができるので、答えがたくさんある点が良いなと思いました。知っている文法や単語を絞り出して作文をするため、ライティングの力がつきやすいなと思いました。参考にさせていただきます。

- ・ビジュアルテキストで描かれているものについて、日本語で書いてから英語に書きなおす点が良いなと思いました。英語が苦手な生徒でも、日本語ならアイデアを出すことができ、授業に参加していることを感じると思います。1人1人異なる文ができそうなので、他の生徒と会話するきっかけになりそうだと考えました。

- ・ビジュアルテキストを用いて、考えることで楽しく英語が書けるなと思った。また、ライティング能力だけでなく、表現力や思考力の向上にもつながるなと感じた。最初に日本語を書くことで、考えやすいし、その後、英語に訳すことで、英訳の力もつくなと思った。授業内にビジュアルテキストのような、いつもと違うものを一つ取り入れるだけで、生徒のモチベーションも上がるのではないかなと思った。また、自分で考えたことを発表したり、話し合ったりすることで、他の人の考えていることも知れるし、自分の意見も共有できるし、とても良い機会だなと思った。看图アプローチをすることで生徒にどんな影響を及ぼすのか、また、どんな効果があるのか、具体的に気になった。生徒に楽しく英語を学んでもらうために、色んな工夫をされていて、とても興味深かった。教える方法は様々なアプローチがあるなと思った。

- ・ビジュアルテキストを通して、色々な発想ができて、たぶん人それぞれ解釈の仕方は違うと思うので、他の人の意見も聞いて、違う考え方を取り入れたり、コミュニケーションをはかることができるのでとても良いなと思いました。

- ・看图アプローチとても魅力的でした。まず、絵を見て日本語から考えることでオリジナルのストーリーを作っていく。それを英語で書いてみることで楽しめるのが良いと感じました。それぞれ違うストーリーができるからこそ、共有し合うことで新しい発見があると感じました。また、先生が1人1人まわってコメントを言ってらっしゃっていたのが印象的でした。私も子どもと関わるアルバイトをしているので、どのように面白さや集中力を続けていくのか毎回、試行錯誤しています。今回のワークショップのように、学ぶ側に様々な考えるアプローチと声かけを大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。

- ・初めてビジュアルテキストをやってみてシンプルだけど頭を使うという印象を受けました。これが上達すると物事をあらゆる角度から見たり視野が広がるなどのメリットがありそうだなと思いました。

- ・スピーキングの活動として、イラストを見てストーリーを勝手に作って話す、ということをやったことがあります。単語からステップを踏んでいけば英語が苦手な生徒もついていけると思います。語彙力もつくと思います。ありがとうございました。

- ・言語化するのが苦手な生徒がたくさんいると感じています。与えられた日本語を英語に直すことはそこまでハードルが高いとは思いませんが、ゼロベースから自分で日本語を作って英語に直すとても良い勉強になるワークショップでした。ありがとうございました。

- ・貴重なお話をどうもありがとうございました。おもしろい取り組みだと思い、おそらく特に



定時制の生徒さんの興味をひく活動なのだろうと思いましたが、これを普段の授業にどのように取り入れられているのかと思いました。遠いところからどうもありがとうございます。

### III. 考察

ここでは、前節のワークショップ体験で得られたワークシート1から3の記述内容から考察をする。まず、看図アプローチの3つの活動である「変換」「要素関連づけ」「外挿」の活動で、参加者が記述した日本語と英語の解答については、江草(2022)とほとんど同じ内容の解答であった。27分という限られたワークショップ体験で、日本語と英語を同時に解答しつつ、個人思考、協同思考と慌ただしく時間が過ぎ去っていった。しかし、参加者たちは楽しみながらも、他の参加者たちと意見を共有しつつ活動に取り組んでいた。

次に、ワークシート4の全体的感想について考察する。全体的な感想としては、「看図アプローチに初めて取り組んでみて楽しかった」「生徒に楽しく英語を学んでもらうために、色々な工夫をされていて、とても興味深かった」「生徒のモチベーションも上がる」「他の人の考えていることも知れるし、自分の意見も共有できるし、とても良い機会だなと思った」、という肯定的な感想が多かった。また、「絵の中から目につくものを書き出すということが思っていたより難しく、細かな所まで見ないと気づけない事柄もあり、大変面白く感じました」という感想から、鹿内(2014, p. 60)が述べている「難しいけど面白い。鹿内らは、このような感想をもってもらうことを目標にしています。学んでいることは難しい。しかし、その難しさを克服させてあげれば、そこから楽しさやうれしさが生まれてくる。」を実現できていた、と考えられる。

「この活動を通して、実際に英文を書こうとする子が増えたのかや、空間把握能力や発想力が伸びた子がいるのかなど色々となりました」看図アプローチをすることで生徒にどんな影響を及

ぼすのか、また、どんな効果があるのか、具体的に気になった」という疑問を含んだ感想に対しては、先行研究の結果をもとに回答することができる。まず、看図アプローチを活用することで英文をもっと書きたいという意欲を高めることができる。茅野・高橋・小笠原・細川(2021)は、次のような生徒の感想を紹介している。「もっと単語を覚えて表現力をつけたい(p.13)」「内容もしっかりしている話をつくれるようになるのにも、知っている単語をふやしたい(p.16)」。さらに、看図アプローチを活用することでライティングの授業に対する生徒の満足度を高めることができる。江草(2023a, p.43)は、次のような生徒感想を報告している。「自分で考えた文を英訳させるのはすごくいいと思う。楽しいし、新しい表現も覚えられる。僕もいくつか新しく覚えられてうれしい」「次回も時間がある時、またやりたいなどと思った。想像を豊かにしてくれるのと、イラストを見てどう思うのか、人それぞれ違ったのを比べて見るのも良いなと思いました」。

### IV. おわりに

本稿では、大学生や英語教員を対象に、江草(2022)と同じビジュアルテキストを活用して、ワークショップで、ライティングの授業を体験してもらった。参加者の感想については、他の看図アプローチの先行研究(茅野・高橋・小笠原・細川, 2021; 江草, 2023a; 鹿内, 2014)を援用しながら、看図アプローチの有効性について論じた。

今後は、看図アプローチ協同学習を促進する「ビジュアルテキスト」である「きゅうちゃん」(江草, 2023b; 石田, 2022, 2023; 鮫島・石田, 2023; 鹿内, 2023; 山下, 2023)を用いてライティングの授業実践を行い、表現力にどのような特徴が見られるか検証していきたい。また、英語の授業で用いられる様々な指導法(鈴木, 2017; 横山・大塚, 2013)も活用して、ライティングだけではなく、スピーキングやリスニングの能力を、総合的に伸ばす看図アプローチ実践研究にも取り組んでいきたい。

## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、鹿内信善先生には、貴重なご助言、及びご示唆を頂きました。また、石田ゆき先生には、ビジュアルテキストの使用の許可を頂きました。深く感謝申し上げます。天理大学英语教育研究会会長の小林千穂先生と事務局長の山本享史先生には、ワークショップを行う機会を与えていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

朝居朋子・織田千賀子 (2023). 「VR 看図アプローチを活用した教科等横断型の授業実践報告」『日本協同教育学会 第 19 回大会 要旨集』, 81-82.

茅野徑子・高橋桃子・小笠原明子・細川亜紀 (2021). 「世界へ飛び出せ, グローバルきゅうちゃん! —ストーリーテラーに挑戦の巻—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 9, 3-19.

江草千春 (2022). 「看図アプローチを活用した定時制高校における英作文の授業実践」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 13, 35-51.

江草千春 (2023a). 「看図アプローチを活用した定時制高校 4 年生における英作文の授業実践—2022 年 3 月の実践との比較—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 18, 35-47.

江草千春 (2023b). 「看図アプローチを活用した定時制高校における英作文の授業実践 (第 3 報)」『日本協同教育学会 第 19 回大会 要旨集』, 83-84.

Finke, R. A., Ward, T. B., & Smith, S. M. (1996). *Creative cognition: Theory, research, and applications*. MIT press. (フィンケ R. A. ウォード T. B. スミス S. M., 小橋康章(訳)(1999). 『創造的認知—実験で探るクリエイティブな発想のメカニズム』 森北出版.)

石田ゆき (2022). 「きゅうちゃんの歴史 (I) —誕生編—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 16, 29-37.

石田ゆき (2023). 「きゅうちゃんの歴史 (II) —とっても大事な「ちょこっと使い」編—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 17, 31-44.

鮫島輝美・石田ゆき (2023). 「演習型授業における学生の主観的学びの記述についての言説分析—自己紹介に看図アプローチを活用した事例から—」『協同と教育』 18, 53-73.

鹿内信善 (2014). 「第 3 章 基礎的能力を育てる看図作文授業」鹿内信善 (編). 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち・看図作文レパートリー・』 (pp.37-62) ナカニシヤ出版.

鹿内信善 (2015). 『改訂増補 協同学習ツールの作り方いかし方—看図アプローチで育てる学びの力—』 ナカニシヤ出版.

鹿内信善 (2016). 「看図アプローチによる授業づくり」杉江修治 (編) 『協同学習がつくるアクティブ・ラーニング』 (pp.99-106). 明治図書出版.

鹿内信善 (2022). 「看図アプローチで読み解く協同教育・協同学習」『協同と教育』 17, 7-20.

鹿内信善 (2023). 「看図アプローチの可能性を拓く—特集号を編集して—」『協同と教育』 18, 31-34.

鈴木涉 (編)(2017). 『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』 大修館書店.

山下雅佳実 (2023). 「『看図アプローチ』を活用した園内研修プログラムの開発」『協同と教育』 18, 35-52.

横山吉樹・大塚謙二 (2013). 『目指せ! 英語授業の達人 23 英語教師のためのフォーカス・オン・フォーム入門 成功するタスク&帯活動アイデア』 明治図書出版.

注 1 本稿は、2023 年 10 月 28 日に行われた天理大学英语教育研究会第 17 回研究集会 (共催 天理学園英語教育連携会議第 3 回研修会) において行われたワークショップに一部修正・加筆を施したものである。

注 2 本研究の一部は JSPS 科研費 23H05072

の助成を受けたものである。

2024年3月15日 受付

2024年3月24日 受理